縄文ロードに
向けた活動

北の縄文CLUB
HOKKAIDO
MINAMIKAYABE

通信

第 2 号

目次　活動報告…2　学習…2　イベント…4

平成11年度　活動紹介

全国各地の発掘調査で今年も新たな発見があり、ますます縄文ファンの心を魅了しております。「北の縄文ＣＬＵＢ」の活動も会員の皆様方のご協力で、無事終えることができました。心より感謝申し上げます。ここに、平成11年度に行われた活動の紹介をいたします。

体験学習　――　原体づくり・土器づくり・野焼き・骨角器（釣り針）づくり・発掘体験

イベント　――　北の縄文ＣＬＵＢ主催　「縄文土器づくり大会」
渡島支庁主催　青函文化交流・縄文の道フォーラムⅡへ参加協力
伊達市教育委員会主催　だて噴火湾縄文まつり　縄文料理コンテストへ参加
南北海道オートリゾートネットワーク研究会主催　「オートリゾートフォーラム'99 in　南北海道」へ参加

学　習

鹿の釣り針で縄文体験

いつもユニークな活動を企画する事務局であるが、今回は、縄文の遺跡から出てくる「鹿角製釣り針」を見本に、釣り針作りに挑戦、そして無謀にも、実際に魚を釣ろう！という話になってしまった。ところが、メンバーのほとんどが「釣りは、はじめてデ～ス」の超ビギナー。どうなることやら、前途多難な幕開けであった。

6月12日、南茅部町福祉センター。この日はフィッシングライターの、臥牛山人さんも参加してのイベントとなった。縄文時代は砥石や木賊などの自然の素材を使ったのだろうが、ここはちょっとズルしてヤスリでシコシコ・・・。「釣り針って、どんな格好・・・？」などと言っていたメンバーも、今は無我の境地で釣り針作りに没頭。異様な静寂に包まれていた。

でも何だかエグイ臭いに、ふと悟りから目覚める。気が付くと、お骨の臭いが部屋中に充満していた。

グエー とみんな騒ぎだし、一斉に窓を開けて深呼吸。原因は鹿角の髄から出る臭いであった。我慢すること数時間、みんな何とか完成にこぎつけた。

見事にできた釣り針にブラーを付けて

実釣は翌朝５時、場所は安浦漁港。昨夜の宴会が堪えていたが、何とか現地に集合。さっそく餌を付けて、釣りの開始・・・と思ったら、みんなオロオロ。そうだ、みんなビギナーなのであった。

早朝５時に起きたかいがあったぞ-！

餌の付け方を教えているとき、「うおっ」という声に振り向くと、三内丸山遺跡でボランティアをしている斎藤さんの手竿が弓なりに弧を描いている。強引に引き抜かれた魚は30cmほどのハゴトコであった。またも三内丸山に先を越された！大急ぎでもう一人の餌を付けてやっていると「きゃ～」の叫び声に慌てて振り返る。今度は、釣りはまったく初めての前田さんの竿が引き込まれている。気が付くと、ハゴトコ８匹にカジカ１匹、昆布１本が釣れていた。私も何とか１匹釣って面目を保った。普段であれば余りありがたくない釣果であるが、大はしゃぎの楽しい釣り体験であった。（阿部）

「北の縄文 CLUB」研究活動に参加して

三内丸山応援隊理事　斎藤嘉次雄

週間少年マガジンを買い込んで連絡船の三等室にもぐり込み、初めて津軽海峡を渡って40年を過ぎようとしている。

昨年６月26日（土）～同27日（日）の二日間、鹿骨を材料とした釣り針体験に参加した。当初は三内丸山応援隊から４～５人参加の予定であったが、連絡の相違から初日は私一人の参加となった。

あらかじめ平板の鹿骨を選び、釣り上げる魚をイメージして骨を削り取る作業に入った。問題は針の先端にカギをつけるか、つける場合は内側か外側かであったが、針が小さいので外側につけることにした。

翌日は、早朝５時に安浦漁港に集合し、現代版の釣り竿へ作成した釣り針を取りつけ、岸壁からドボーンと挑戦。三内丸山と南茅部の縄文魚釣り大会である。釣り初めて30分後、初めての成果である。地元ではハゴトコというアブラメ科の魚で、感激するより半信半疑であった。３時間ほどで、７人で10匹ほどの釣り成果であった。

私が最初にゲットしました

イベント

縄文土器づくり大会（青函文化交流）

昨年好評だった「縄文土器づくり大会」も今年で2回目を迎えた。会場となった南茅部町福祉センターは、地元をはじめ札幌や茨城などから集った160名の参加者で熱気に包まれていた。

縄文土器づくり名人が大集合

最初に講師による土器の作り方の説明があった。皆熱心に聞きながら粘土を見つめる目にはそれぞれ思い思いの縄文土器が浮かんでいるようであった。さっそく粘土を手に土器の底の部分を作り始める。本物の土器をお手本に粘土を積み上げていくがこれがなかなか思うようにはいかない。会場は昼食の時間になっても席を離れる人は少なく、夢中になって土器を作っている人、互いの土器の出来映えを批評している人などさまざまである。いつの間にか見知らぬ者同士が、土器をとおして会話が弾んでいるのである。やがて形が出来上がり、文様をつけていくと「縄文土器」に早変わりする。何とも不思議である。

また、この日は渡島支庁主催による青函文化交流が併せて行われ、三内丸山応援隊の皆さんや、七飯町の歴史館友の会の方々40名も参加して土器づくりを楽しんだ。土器づくり大会終了後には、「ホテルひろめ荘」において、北の縄文CLUBのメンバーも参加しての意見交換が行われた。

各グループの活動の紹介の後、今後の展望や各遺跡との関わりについて活発な意見が交わされた。また、若い後継者の育成については、それぞれが抱える問題点であるようだ。席上、三内丸山応援隊の顧問である市川金丸氏は、「私たちの活動は単なる趣味としての活動ではなく、趣味を越えた活動であり、縄文をとおした活動の中に人間同士のつながりが生まれてくる」と述べられ、参加者一同深い感銘を受けた。（坪井）

三内丸山から縄文服を着ての参加

もうすぐ出来上がり

オートリゾートキャンプフォーラムに参加して

とても寒い一日でした

10月23日に函館オートリゾートキャンプ協議会の主催による、フォーラムが函館オートキャンプ場で開催されました。北の縄文CLUBへの協力願いがあり、“土器を使っての縄文食の再現”で参加協力いたしました。初冬を思わせる最悪のコンディションでしたが、管理棟内ではフォーラムと併せて縄文土器作りなどの多彩なイベントが開催され、当CLUBの木村会長も講師となり、十数名の受講者へ親切に指導しておりました。

フォーラムの終了が間近に迫るのと同時に“縄文鍋”の準備万全。焼き石も充分熱せられ、石皿のうえの川魚も食べ頃サイン！！フォーラムが終了すると、続々と“炉”の周りに人垣ができた。参加者がこんなにいたとは・・？いよいよ“縄文鍋”の見せ所だ。鍋の中には地物の“山の幸、海の恵み”がたっぷり入っている。そして、鍋の中へ十分に熱していた焼石を一つ、二つと放し、その度に鍋の上まで沸騰する勢いは実に豪快である。人垣から歓声があがったところで皆さんに鍋、焼き魚を振る舞い評価を得る。塩以外は使わない自然な味であった。

今回のフォーラムでは『自然と環境』などをテーマに、リゾートキャンプの在り方全般が話し合われた様子です。その一環として北の縄文CLUBの協賛も“縄文”の言葉の響きから『自然と環境』が背景にあることを理解していただく機会でもあり、実りある一日でした。（熊谷）

北の縄文ワイルドツアー

さかいひろこ

長万部のインターチェンジを降りてすぐに北の縄文CLUBは危機に直面した。「小林くーん。北黄金貝塚ってどっちだっけ？」阿部室長のことばにみんなは真っ青になった。

土器作り大会の翌日、縄文CLUBは伊達市北黄金貝塚の「縄文まつり」の縄文グルメコンテスト（？）にエントリーすべく、早朝木村会長の縄文土器と大塚さんが釣った南茅部の魚（なんて魚だったか忘れてしまいました）を満載して会場へと車を連ねていたのだ。坪井さんの野性の勘で奇跡的に会場に辿り着く。阿部室長の鮮やかな包丁さばき。しかし、縄文’Sなど相手は強豪揃いである。審査員もなかなか手強そうだ。なんと、作っているそばからマイクで質問が飛び交う。パフォーマンス能力まで問われるのだ・・・。

私はなにもせずただカメラを回していた。「優勝・・・北の縄文CLUB！」緊張の一瞬ののち、感動の場面である！小林君の巨体が宙を舞った。楽しい一日だった。

画・さかいひろこ

秋の野焼き

炎の中に見える土器はとても神秘的です

今回の野焼きの日程は流れに流れた。9月18日に向けせっせと薪割りをし、2日前には発掘作業用のプレハブの中に200個程の作品がズラーッと並び、野焼きの準備は整った。しかし、野焼き当日は天候不良のため消防署の許可がおりず延期となってしまった。これで作業の休憩中、土器と一緒の緊張感ある生活が始まることになってしまった。作業員さんは端に寄る状態で休むことになり、少し窮屈そうである。しかし、2日も土器と一緒に過ごすとみんな普通に休憩を取っている。慣れとは恐ろしいものだ。

次の土曜と日曜もあいにく風が強く野焼きは結局10月5日に行うこととなった。

当日は消防のみなさんに囲まれ、火はいつもより勢いよく燃え上がったような気がした。4つのレーンが燃え上がった情景は、昼よりも夜にこそ見応えがあるのでは？と思えてしまう。

全ての土器が焼き上がり、我が子のような土器を並べてみんなで記念撮影。充実した一日だった。

焼き上がった土器を前に記念写真

発掘体験

7月25日に親子と小学生との発掘体験と土面作りが行われた。このイベントは、親子39組と地元を含む小学生24名が参加して午前と午後に分かれ、発掘体験は大船C遺跡、土面作りを福祉センターで行った。指導についていると、子供は目を大きくして土器を探し、お父さんは子供そっちのけでひたすら掘っている。子供の時に戻ったように目をキラキラさせて遺物を探すお父さん、お母さんがなかなか多い。

土を取り除くと土器が顔をのぞかせます

「普段の生活ではほとんど土にすら触ることがない、直接自然に触れるとストレス発散になりますね。」とお父さんはい～い笑顔で話してくれた。（輪島）

だて噴火湾まつりに参加して

炎天下、じっと見つめる土器の中

9月4日、北黄金貝塚で有名な伊達市において、第2回（だて噴火湾縄文まつり）が開催され、北の縄文CLUBも興味津々で参加申し込みをしました。

今回のテーマは「食」でしたので、できるだけ縄文時代に近い再現をしようと縄文鍋をはじめ、素朴な道具を持参し、食材はイノシシ・ホタテ・キノコ、そして僕は大船川で釣り上げた50㎝位のアメマス・イワナ・ヤマメなどを持参しました。

この日は、とても暑く太陽がぎらぎらの中、縄文鍋の周りで作業し、当時の生活に思いをはせました。観衆は縄文鍋を見て驚き、川魚を見ては驚き、客の一人は縄文時代そのものだと驚きを隠せない様子でした。塩とコンブだけで味付けをして野菜と魚介類を入れ、焼き石が鍋にはいると観衆は、「これはスゴイ」と盛大な拍手が会場を沸かせました。全部で5チームが参加し、それぞれがアイデアを考え、そば粉の皮で作ったクレープ、また、魚の塩釜など各チーム悪戦苦闘していました。

そして試食の体験時間が来て参加者は予想以上の味に「これはいけるね」と舌鼓を打って、いよいよ7名の審査員の発表で、なんと南茅部町「北の縄文CLUB」がグランプリに輝きました。仲間は皆飛んだり跳ねたりバンザイの連続、感動の瞬間で皆子供に帰ったように（あっ、それは俺か？）ハシャギました。気持ちの良い一日でした。（大塚）

縄文の道フォーラムⅡに参加して

12月19日、昨年に引き続きホテル函館ロイヤルで縄文の道フォーラムⅡが開催された。

ちょっと緊張ぎみです

基調講演が終わり、フォーラムのメインとなる5団体の代表によるパネルディスカッションが始まった。緊張されているのかちょっと表情の硬い木村会長。しかし、活動報告が進むにつれて舌が回ってきた。ディスカッションでは、行政との連携や三内の若井氏が言われた組織の巨大化に伴う問題が注目された。今後、当CLUBも同じ課題を考えていかなければならないだろう。（輪島）

大船Ｃ遺跡速報展示室オープン

待ちに待った速報展示室がついに４月28日オープンしました。展示室には、大船Ｃ遺跡でわかった最新情報や南茅部町内の遺跡の紹介、縄文の火起こしを体験できる縄文体験のコーナーなどがあります。また、CLUB会員が作った土器や骨角器も展示されています。ぜひ、いらしてください。

開館期間　４月下旬から11月上旬まで
（休館なし）

開館時間　９：00から17：00まで

入館料　無　料

所在地　北海道南茅部町字大船575-1
（大船Ｃ遺跡となり）

2000年３月31日　第２号発行
発　行　北の縄文CLUB
連絡先　北海道南茅部町字大船575-1
埋蔵文化財調査団内
TEL.01372-2-5510
FAX.01372-2-5606